

日建連建築セミナー開催報告

関係性のデザイン
人の集まり方をデザインする

日建連は去る十月十七日、「日建連建築セミナー」を東京証券会館ホールで開催した。講師に建築家の千葉学氏をお招きし、「関係性のデザイン」というテーマでご講演いただいた。

建築をつくる本質を考える

千葉氏は、敦賀駅交流施設「オルパーク」・駅前広場キャノピー（第五八回BCS賞受賞、



自身の作品をスライドで紹介する千葉氏。画面は「敦賀駅交流施設『オルパーク』・駅前広場キャノピー」（2015年）。

二〇一五年竣工）をはじめ、住宅から公共施設まで幅広く手掛けている。冒頭、自身が建築を学んだ一九八〇年代はポストモダニズムによる表層的なデザインが流行していたが、それに対しては懐疑心を持っていたこと、また最近の建築家の仕事を表層的なデザインに追いやられつつあるが、建築をつくる本質とはそのような表層的なことではなく、建物の骨格によって人と人、人と場所の繋がりについて働きかけることではないかと説明した。「日本盲導犬総合センター」の設計時に、単に新しい建築が建つということに留まらず、人が集まる場所になりたいと思いたい、人の集まり方のデザインが自分の中で大きなテーマとなった」と千葉氏。設計時には大量に模型をつくり、「もの」や「こと」を見つめ直していくことで新たな発見があると語った。

人と人、人と場所の関係性を豊かにする

「人と人の関係がどうあるかということとは、その場のコミュニティとか、そこで起こる様々な活動にとって重要なのではないかと思ってる」と千葉氏。工学院大学一二五周年記念総合教育棟（第五五回BCS賞受賞作品、二〇一二年竣工）では、「様々な活動がキャンパスのあちこちで行われていることが大学の魅力と考え、片廊下形式が多い大学校舎の構成を見直し、L型校舎四棟を組み合わせた構成とすることで、お互いの活動を感じられるような設計とした」と述べた。

尾崎勝日建連建築設計委員長との対談では、千葉氏と尾崎委員長による建築の共通点、設計時の思考の仕方、構造と設備の整合性などについて話題が広がった。最後に、「建築をつくることはとても楽しい。建築を通して多くの新しい物事を知ることができる。建築を志した若い学生には、建築分野に進み、ずっとやり続けてほしい」と述べてセミナーを締めくくった。



セミナーの後半では尾崎勝建築設計委員長（左）との対談が行われた。